

市議会6月定例会  
行政報告

# 降ヒヨウ被害救済へ

## 『農作物異常気象対策協議会』招集

市議会六月定例会が招集された六月十日、小畑市長が行政報告をしました。その中から、主なものの要旨をお伝えします。

なお、今定例会で審議された案件等については、七月一日号でお知らせします。

### 降ヒヨウ及び集中豪雨による被害について

寒冷前線の通過により、五月三十一日午後三時二十分ころから、約二十五分間にわたる降ヒヨウと、九十分間の雨量が四十ミリという集中豪雨にみまわれ、



農作物と道路関係に被害が発生しました。

特に、市南部の上川沿、十二所地区の農作物が降ヒヨウにより大きな被害を受け、果樹については被害が甚大で、中山ナシは壊滅状態になりました。また、上川沿地区の露地野菜は、収穫期にあったレタスなどの葉菜類、定植後の果菜類の苗木、枝豆、ホップなどが被害に遭い、農業関係の被害総額は三億円にも及んでいます。

この降ヒヨウ被害に対する救済対応策などを協議するため、六月一日、「大館市農作物異常気象対策協議会」を緊急に招集し、被害の実態調査や「ヒヨウ害緊急情報」を発行するとともに、今後の肥培管理及び再生産の確保のため、国、県に働きかけながら、資金対策被害救済事業の実施など総合的な対策を講

ずるよう、鋭意努力し準備を進めています。

道路関係では、天神緑町線ほか三路線の四カ所で路肩などが決壊したほか、道路の冠水が八カ所、合わせて五百万円の被害額となりました。

このたびの降ヒヨウ、集中豪雨により、被害に遭われた皆さんには心からお見舞い申し上げますとともに、市としても被災者の皆さんと十分な連携をとりながら、できる限りの援助をしていきたいと考えています。

### 農作物の生育状況について

今年の冬は暖冬少雪に推移したため、四月当初から夏季の水不足や、果樹などの成育が早まったことによる凍霜害が心配されました。また、春の暖候期予報によると寒暖の変動が大きく、五月は一時寒気が南下し、おそ霜などのおそれがあるとの情報により、技術指導などを行ってきました。

四月は低温注意報が二回も出されるなど、肌寒い日が続いたため、水稲の播種期は平年より一日から二日程度遅れ、四月十日から十二日が始期でした。また、田植えの始期は平年同様五月十五日からとなりましたが、降雨のため予定より一週間ほど繰り延べする農家が多く、最盛期は平年より三日遅れましたが、終期は平年並みの二十三日でした。

苗の活着状況は、天候に恵まれ、発根も順調でしたが、五月三十一日の降ヒヨウ及び集中豪雨により、一部の水田に冠水が見られたことから、今後の栽培技術指導について、徹底を図っていくとともに、用水不足も心配されますので、節水と計画的な水利用に努めるよう、指導してまいります。

### 職能短大の開校について

秋田職業能力開発短期大学校は、北鹿地方初の高等教育機関

### 市長リポート



No.46

#### ごみを資源として 再利用するために

市民のみなさんのご協力により、いよいよ七月から、ごみの分別収集が本実施されます。その目的は、ごみを資源として再利用し、美しい自然を後世に伝えていこうということです。

今は、燃やせるごみと燃やせないごみ、資源ごみなどという分別収集ですが、さらにもう一歩進んで、生ごみ、紙、金属：と、もっと細かく分別することにより、生ごみは堆肥として、紙は再生紙として、金属は再加工作して、というように、ごみを資源として再利用することが可能になります。その結果、ごみの量が減り、ごみ処理に要する費用が節約できます。このように各種のごみを細かく分別収集し、ごみの再資源化をはかることが、資源の保護、環境の浄化につながるのです。

限りある資源を守り、美しい郷土「大館」を後世に伝えるためにも、これからも分別収集にご協力をお願いいたします。

小畑 元